

オンライン式授業や保育実習が保育士のキャリア形成に 与える影響に関する研究

鳥海 弘子・浅井 拓久也

1. 研究背景と課題設定

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により世界的な流行が2年となる中で、今までの生活が一変し、経験したことがない対応を余儀なくされている。しかし、保育者養成校の学生の学びはこうした制限的な環境の中でも継続して行かなければならない状況となり、遠隔授業の活用や授業の弾力的な取扱い等については、「令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知）」（令和2年3月24日付元文科高第1259号）（厚生労働省2021）に基づき、多くの大学や短期大学ではZoomやGoogle meetを活用したオンライン式の授業や保育実習が導入されている。

オンライン式授業や保育実習は新型コロナウイルス感染症の流行によって取り急ぎ導入された側面が強く、それゆえにその効果の測定について現在様々な研究がなされてきた。全国保育連盟調査部による「新型コロナウイルス感染症に関する調査2～第1波感染期間を振り返る～」(2020.7)、「新型コロナウイルス対応から考察する「保育実習」に関する調査」(2021.1)、「みんなで考えるこれからの保育実習」(2021.5)、「新型コロナウイルス感染症に関する調査報告2021」(2021.8)等は全国規模で保育現場における調査を実施した結果をまとめている。保育者養成校としての研究は小湊ら(2021)、堀ら(2021)、百瀬(2021)、中西利恵ら(2021)の研究成果がある。

しかし、こうした研究の中心はオンライン式授業や保育実習を学生がどう把握しているかというものであり、実習施設の保育士の理解や認識を問うものではなかった。保育士は実習等で学生を受け入れる側であり、また学生が就職後に同僚（先

輩）になる立場であることから、これまでになかったオンライン式授業や保育実習の経験が保育士としてのキャリアにどのような影響を及ぼすと保育士が考えているかを明らかにすることは、オンライン式の授業や保育実習の効果を検討するうえで欠かせない¹⁾。

そこで、本研究では、養成校での学習や保育実習に関するいくつかの項目について【オンライン式中心の授業や保育実習】と【対面式中心の授業や保育実習】を比較し、オンライン式の授業や保育実習の可能性と課題、保育士としてのキャリア形成をしていくうえでの現状と課題を検討する。

2. 対象と方法

(1) 調査概要

調査の実施にあたり、秋草学園短期大学倫理審査委員会にて承認を得た(2020年12月)。同委員会での承認後、保育所実習Ⅰ・保育所実習Ⅱの実施先である160の保育施設にQRコードを郵送した。回答は2021年1月～2月の間にQRコードを読み取り、配布先の園に所属する保育者が入力した。調査は無記名として、各園1回の入力とした。

(2) 分析に使用する質問項目

分析には次の25項目について5件法「オンライン式の授業や保育実習のほうがよく学べる。」、「オンライン式の授業や保育実習のほうがやや学べる。」、「どちらの方式でも変わらない。」、「対面式の授業や保育実習のほうがやや学べる。」、「対面式の授業や保育実習のほうがよく学べる。」を求めた(表1)。

表1 質問項目

子どもの最善の利益の考慮や子どもの人権へ配慮をする。	子どもが自発的、意欲的に関わられるような環境を用意する。
子どもの育ちや内面を理解する。	子どもの様子や状況に即して柔軟に環境を再構成する。
子どもの個性を尊重する。	地域社会にある様々な資源を活用する。
子どもの生活状況を把握する。	養護と教育を一体的に展開する。
子ども同士や集団の状況を把握する。	子どもが安心感や信頼感をもてる関わりをする。
子どもの発達過程に即したねらいや内容を設定する。	子どもの個人差へ配慮する。
子どもの実態に即した保育を展開する。	保護者との信頼関係を築く。
子どもの主体的な遊びや生活を保障する。	子どもの主体的な活動を促す適切な援助をする。
子どもの体験の豊かさや広がりを保障する。	特別な支援や配慮を要する子どもへ適切に関わる。
子ども相互の関わりや関係づくりを支援する。	自分が担当するクラスの指導計画を作成する。
集団における活動や大人との関わりが充実するようにする。	保育の記録を適切に作成する。
健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意する。	行事の時期と内容を把握する。
	職員間の役割分担及び協力体制を理解する。

3. 結果

おおよそどの項目でも対面式の授業や保育の方が学べるという回答であった。中でも、「対面式の授業や保育実習のほうはやや学べる。」「対面式の授業や保育実習のほうがよく学べる。」を合わせて90%以上であった項目として、「子ども同士や集団の状況を把握する」、「子どもの実態に即した保育を展開する」、「子どもの主体的な活動を促す適切な援助をする」、「特別な支援や配慮を要する子どもへ適切に関わる」であった(表2)。

一方で、「オンライン式の授業や保育実習のほうがよく学べる。」「オンライン式の授業や保育実習のほうはやや学べる。」、を合わせて10%以上であった項目は、「子どもの最善の利益の考慮や子どもの人権への配慮をする」、「自分が担当するクラスの指導計画を作成する」、「地域社会にある様々な資源を活用する」、「保育の記録を適切に作成する」であった(表2)。

4. 考察

本研究の分析の結果として保育者は、ほぼすべての項目で対面型学習を評価していた。オンライン型学習では記録や指導案のような書類作成に関してはオンライン型学習もやや評価されていた。これらを保育者のキャリア形成の観点からみる

と、入職時の面接で対面型学習の経験がないことで学生のコミュニケーション力や保育者としての技術的な資質に必要な以上に疑義を向けられる可能性があるだろう。すなわち、新卒入職時からのキャリア形成において同僚(先輩)保育者からネガティブなイメージをもって開始することになるということである。

こうした事情を背景にして、オンライン型学習では、子どもたちとのコミュニケーションを直接とることとできないことから、他者とのコミュニケーションや保育技術の習得の確認としての模擬保育などの実践的な対策を実施することで、より現場での対応能力に繋げる取組みを実施していく必要があるであろう。中田らは(2014)模擬保育は座学だけでは得られない保育者の援助や保育内容に関する気づきが得られると述べている。

5. まとめと今後の課題

保育者のキャリア形成は、吉村らは(1997)経験年数が保育者の成長を測る指標とされ、単に経験年数が長くなることがすなわち成長することであると考えられており、その結果、保育者の経験年数に基づいた力量形成はライフヒストリーに着目しなければならないと指摘している。しかし、平成29年社会福祉施設等調査(厚生労働省)によ

表2 オンライン式と対面式の比較結果 (N=120)

質問項目	オンライン式の 授業や保育実習 のほうがよく学 べる。	オンライン式の 授業や保育実習 のほうがやや学 べる。	どちらの方式で も変わらない。	対面式の授業や 保育実習のほう がやや学べる。	対面式の授業や 保育実習のほう がよく学べる。
子どもの最善の利益の考慮や子どもの人権へ配慮をする。	6 (5.0)	4 (3.3)	37 (30.8)	20 (16.7)	53 (44.2)
子どもの育ちや内面を理解する。	2 (1.7)	2 (1.7)	17 (14.2)	23 (19.2)	76 (63.3)
子どもの個性を尊重する。	1 (0.8)	3 (2.5)	16 (13.3)	20 (16.7)	80 (66.7)
子どもの生活状況を把握する。	3 (2.5)	3 (2.5)	23 (19.2)	21 (17.5)	70 (58.3)
子ども同士や集団の状況を把握する。	2 (1.7)	0 (0.0)	11 (9.2)	17 (14.2)	90 (75.0)
子どもの発達過程に即したねらいや内容を設定する。	4 (3.3)	5 (4.2)	26 (21.7)	26 (21.7)	59 (49.2)
子どもの実態に即した保育を展開する。	2 (1.7)	0 (0.0)	9 (7.5)	18 (15.0)	91 (75.8)
子どもの主体的な遊びや生活を保障する。	2 (1.7)	0 (0.0)	13 (10.8)	27 (22.5)	78 (65.0)
子どもの体験の豊かさや広がりを保障する。	2 (1.7)	1 (0.8)	13 (10.8)	23 (19.2)	81 (67.5)
子ども相互の関わりや関係づくりを支援する。	2 (1.7)	2 (1.7)	8 (6.7)	24 (20.0)	84 (70.0)
集団における活動や大人との関わりが充実するようにする。	2 (1.7)	1 (0.8)	13 (10.8)	20 (16.7)	84 (70.0)
健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意する。	4 (3.3)	2 (1.7)	31 (25.8)	23 (19.2)	60 (50.0)
子どもが自発的、意欲的に関わられるような環境を用意する。	3 (2.5)	1 (0.8)	20 (16.7)	23 (19.2)	73 (60.8)
子どもの様子や状況に即して柔軟に環境を再構成する。	3 (2.5)	0 (0.0)	6 (5.0)	25 (20.8)	86 (71.7)
地域社会にある様々な資源を活用する。	5 (4.2)	6 (5.0)	49 (40.8)	20 (16.7)	40 (33.3)
養護と教育を一体的に展開する。	4 (3.3)	1 (0.8)	36 (30.0)	23 (19.2)	56 (46.7)
子どもが安心感や信頼感をもてる関わりをする。	2 (1.7)	2 (1.7)	10 (8.3)	17 (14.2)	89 (74.2)
子どもの個人差へ配慮する。	3 (2.5)	3 (2.5)	8 (6.7)	22 (18.3)	84 (70.0)
保護者との信頼関係を築く。	3 (2.5)	0 (0.0)	15 (12.5)	21 (17.5)	81 (67.5)
子どもの主体的な活動を促す適切な援助をする。	2 (1.7)	0 (0.0)	11 (9.2)	17 (14.2)	90 (75.0)
特別な支援や配慮を要する子どもへ適切に関わる。	3 (2.5)	0 (0.0)	6 (5.0)	17 (14.2)	94 (78.3)
自分が担当するクラスの指導計画を作成する。	4 (3.3)	9 (7.5)	31 (25.8)	22 (18.3)	54 (45.0)
保育の記録を適切に作成する。	6 (5.0)	7 (5.8)	38 (31.7)	18 (15.0)	51 (42.5)
行事の時期と内容を把握する。	2 (1.7)	5 (4.2)	56 (46.7)	13 (10.8)	44 (36.7)
職員間の役割分担及び協力体制を理解する。	1 (0.8)	5 (4.2)	25 (20.8)	23 (19.2)	66 (55.0)

ると保育所で勤務する保育士の経験年数は、2年未満40,390人(15.5%)、2～4年未満34,813人(13.3%)、4～6年未満28,998人(11.1%)、6～8年未満24,699人(9.5%)、8～10年未満20,725人(7.9%)、10～12年未満17,583人(6.7%)、12～14年未満15,243人(5.8%)、14年以上78,721人(30.1%)となっており、経験年数に基づいた力量形成となっていくのが難しいのではないかと考える。単に経験年数を積み上げるだけではなく、キャリア形成ができる取組みが望まれるのであろう。

キャリアプランニング能力の育成として、中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」では基礎的・汎用的能力として「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力に整理している。保育者を目指す学生の間に、社会で果たすべき役割を考えキャリアプランニング能力の育成を養成校としての教育システムの構築をすることで、就職後の問題解決能力や適応能力等に繋げる取組みが求められるのではないだろうか。現状では西本(2015)は短期大学でのキャリア形成における支援は2年間という短い期間においては、教員が授業の時間を使ってキャリア支援を行っているとして述べている。保育者のキャリアプランニング能力を高めるためには、全ての授業において、問題解決への過程を経ての結論までを学べる取組みとして、自分自身で気づくことのできる学びを行うことが必要であろう。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、手探りで保育所も運営余儀なくされている中で、新たな対応方法で保育所実習を行わざるを得ない状況となっている。厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン2018年改訂」2021年8月一部改訂に「これまで発生したことがない新しい感染症が国内に侵入・流行した場合、侵入・流行している地域では少なからず社会的な混乱が生じることが予想されます。このような状況下で保育所には、児童福祉施設として社会機能の維持に重要な

役割を担うとともに、乳幼児の集団生活施設として子どもたちの健康と安全の維持を図るという重要な役割を担うことが求められます。」と示されていることから、保育所等においては、子どもたちの健康被害を最小限に食い止めるためにどうすべきかを考えなければならない。

そのような状況の中で、実習生も受け入れることは負担が大きい。子どもたちへの感染リスクを考えると実習生を受け入れない方が安全であると思えるからである。しかし、未来の保育士を育てなければならないという育成を止めることはできないことから、オンライン型学習が取り入れられているのである。保育者は保育所での実習により、子どもと直接関わることで学ぶことが多くあり、保育者としての未来が描けていけることを保育者自身が実感している。その実体験の少なさをカバーできる環境を保育所等と保育者養成校が一緒になり考えて新たなシステムづくりに取り組むことが今後の課題である。

就職後も新人保育者ならおおよそ躓くことも養成校での学び方に問題があったと考えられてしまう可能性があることから、保育者のキャリア形成を始めるにあたって好ましくない影響を及ぼすことが考えられる。しかし、オンライン型学習による学びが増え、保育実習もいままでのように実施できない状況の中では、それに代わる方法で学びを深めなければならない。そのため、オンライン型学習の効果測定を行い、対面型学習に相当する方法を模索していくが必要になる。

引用文献

中央教育審議会 答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(平成23年1月31日)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000015s0j-att/2r98520000015sp1.pdf>
閲覧日2021.12.5

堀由里・小嶋玲子・野口啓子・金子晃之(2021)

新型コロナウイルス感染症対策に伴う保育実習
学内プログラムの作成と課題. 桜花学園大学保
育学部研究紀要.23.191-199.

岩立京子・樟本千里・福田真奈(1998)

幼稚園教諭および保育所保母のキャリア形成
(1) 一保育者の保育実践における経験内容およ
びその経験年数による差について一東京学芸
大学紀要1 部門.49.215-220.

小湊真衣・鳥越ゆい子・望月崇博・青木直樹(2021)

保育実習参加予定学生の新型コロナウイルス感
染症流行に起因する不安とその支援.帝京科学
大学紀要.17.83-90.

厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドラ
イン2018年改訂」2021年8月一部改訂 1-118

[https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/
kodomo/hoiku/ninkagai/ninkagai-jigyousha/
kansensyotaisakuguideline031008.files/
R031126kansensyo_guideline.pdf](https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/hoiku/ninkagai/ninkagai-jigyousha/kansensyotaisakuguideline031008.files/R031126kansensyo_guideline.pdf)

閲覧日：2021.12.6

無藤隆(2009)幼児教育の原則—保育内容を徹底的
に考える.ミネルヴァ書房.京都

百瀬和夫(2021)特別支援教育の知見をいかした学
校経営X—新型コロナウイルス感染症の影響
下における学校や保育園の現状を考える—.関
西国際大学教育総合研究所.教育総合研究叢
書.14.219-225.

文部科学省(2020)遠隔授業の活用や授業の弾力的
な取扱い等については、「令和2年度における大
学等の授業の開始等について(通知)」(令和2年
3月24日付元文科高第1259号)

[https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/
000640105.pdf](https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000640105.pdf)

閲覧日：2021.12.6

中西利恵・曲田映世(2021)保護者支援を実践でき
る保育者を養成する教育方法の研究-保護者参
加型教育プログラムの開発と新型コロナウイルス
感染症拡大状況下での実施-.相愛大学研究論
集.37.89-102.

中田(後藤)範子・柳瀬洋美・渡邊真理(2014)共に育
つ保育者養成の探求-保育実習Ⅱ(保育所実習)
に向けた保育実習指導のあり方-東京家政学院
大学.54.9-23.

西本佳代(2015)保育者養成校におけるキャリア支
援に関する一考察「保育者養成校におけるキャ
リア支援事例集」作成に向けて至誠館大学研究
紀要.1.83-87.

小原敏郎・入江礼子・白石敏行・友定啓子(2008)
子ども同士のトラブルに保育者はどうかかわっ
ているか-保育者の経験年数・トラブルが生じ
る状況による分析を中心に-.乳幼児教育学研
究.17.93-103.

上田淑子(2001)保育者の専門的力量研究の展
開.安田女子大学大学院文学研究科紀要 教育学
専攻.8.113-129.

吉村 香・吉岡晶子・岩上節子.(1997)
保育者の成長における実践と省察. 保育学研究.
35(2). 288-295.

全国保育連盟(2020)新型コロナウイルス感染症に
関する調査2～第1波感染期間を振り返る～報
告書.1-18.

[https://www.zenshihoren.or.jp/pdf/tyousa_2
0200728.pdf](https://www.zenshihoren.or.jp/pdf/tyousa_20200728.pdf)

閲覧日2021.12.5

全国保育連盟(2021)新型コロナウイルス感染症に
関する調査2021報告書.1-20.

https://www.zenshihoren.or.jp/pdf/tyousa_20210826.pdf
閲覧日2021.12.5

全国保育連盟(2021)みんなで考えるこれからの保育実習調査報告書.1-32.

https://www.zenshihoren.or.jp/pdf/tyousa_20210512.pdf
閲覧日2120.12.5

全国保育連盟(2021)新型コロナウイルス対応から考察する「保育実習」に関する調査報告書.1-20.

https://www.zenshihoren.or.jp/pdf/tyousa_20210106.pdf
閲覧日2021.12.5

注

1) なお、保育士のキャリア形成に関する研究は数多くあり、特にキャリア形成には保育士の専門的成長に関する研究として、岩立ら(1998)、上田(2003)、小原他ら(2008)無藤(2009)がある。しかし、これらはオンライン式授業や保育実習を経験することを前提としたものではなかった。